第１回安曇野市水道事業運営審議会　会議概要

１	審議会名　　第１回安曇野市水道事業運営審議会
２	日　　時　　平成19年11月６日　午後１時30分から午後３時15分まで
３	会　　場　　豊科総合支所　上下水道棟２階会議室
４	出席者　　平林委員、塚田委員、松村委員、務台委員、窪田委員、 山﨑委員、加々美委員
５	出席者　　市側　太田部長、大澤課長、小松課長、中野副参事、古幡係長 斉藤係長、小穴係長、水谷係長　事務局古畑
６	公開・非公開の別　　公開
７	傍聴人　　０人　　記者　２人
８	会議概要作成年月日　　平成１９年１１月１５日

協　議　事　項　等

１　会議概要

（１）開　会　（大澤上下水道課長）

（２）会長あいさつ

（３）諮　問

（４）議　事

① 平成１８年度安曇野市水道事業の決算状況について

② 豊科事業の経営状況について

③ 堀金事業の経営状況について

（５）その他　水道ビジョン策定、次回開催日、施設見学について

（６）閉　会

２　審議概要

議 事 ①平成１８年度安曇野市水道事業の決算状況について。

事務局　市として年間を通した決算は今回が初めてになる。給水人口は98,080人で138人の増であったが、少子高齢化等の影響で人口が伸びないため給水人口も増加しない状況となっている。また、年間総配水量と給水量は下水道の普及によって接続が増加したのにも関わらず使用水量が減少傾向にある。要因としては、各家庭で下水道に接続する際に水周りを改良する場合が多く、それに伴って節水機器に更新するケースが多いため給水量が減少するものと思われる。

財政状況については、収益、費用ともに減少した。この中で減価償却費は１億円程度増加したが、主には穂高における大規模工事の竣工分である。しかし、減価償却費が１億円増加したにも関わらず利益が増加した理由としては、合併効果によって全体的に費用が減少したことも要因となっている。

資本的収支においては当初予定していた起債借入を取りやめた。結果的には収支で1,486,573千円の財源不足が生じたが、過年度分損益勘定留保資金と建設改良積立金から709,000千円、減債積立金から220,000千円を補てんした。建設改良事業は総額1,271,756千円で、主なものは穂高の第五次拡張事業の610,015千円となった。

各事業においては減価償却費、支払利息の割合が多くそれが収支に影響している。当年度の損益は穂高のみ赤字であったが、合併効果分の配分として本庁人件費分を調整したため当初に見込んでいた穂高の赤字は減少した。資本的支出における主な事業

は配水設備工事であるが、穂高事業では第五次拡張事業と企業債償還金が大きな額であり、それに伴って収支の不足額も多額であった。

補てん財源残高は豊科・穂高・三郷ともに10億円程度あることから資金的には余裕はあるが、堀金・明科は2～3億円程度の残額であることから厳しい状況となっている。特に、堀金は今後も大変に厳しい状況になっていく事が予想される。

以上、平成18年度安曇野市水道事業決算状況について説明。

会　長　何か質問は。（質問なし）

議事②豊科事業の経営状況について。

事務局　豊科は第四次拡張事業として水量不足対策工事を進めるとともに、下水道関連の配水管布設替工事を行っている。合併後の新たな事業としては真々部配水地緊急遮断弁設置、三郷水源との統合を目指した水源転換関連工事を予定し、これらは平成22年度頃までに完了する予定だ。

一方経営面においては、合併前からの定期的な料金改定によって現在は安定的な利益が生じており、平成18年度決算で82,800千円の利益を計上した。

しかし、豊科はエプソンの水道使用量が減少傾向にあり、唯一経営面において懸念されるところである。現在、豊科全体の使用水量の内エプソンへの給水量は20%程度を占めており、エプソンの動向次第では豊科の経営が一挙に悪化することも想定しなければならない。未確定の内容であるが、今後エプソンの使用水量は皆無になるとの情報もあり、そうした場合には億単位で収益が減ることになる。エプソンからの給水収益は平成18年度で128,017千円であり、エプソンが水を使用しなくなった場合、平成18年度決算を元に計算すると約40,000千円程度の赤字となる。エプソンが従来通りの水道を使用すれば問題ないが、それを見込めなくなった場合には豊科は料金改定せざるを得ない状況となる。

また、豊科の料金改定については合併前からの上水道研究委員会の答申により3年毎の定期的な料金改定を行ってきた。前回は平成17年4月に8.1%改定しており、それから3年後にあたる20年4月が改定時期の目安になる。それを引継いで、この運営審議会で協議願いたい。

会　長　何か質問は。

委　員　エプソンが水を使用しなくなる事を前提とし審議したほうが良いか。

事務局　現在、エプソンに係る今後の具体的な資料はない。おそらく今月中にエプソンから正式な説明があると思う。それによりもう一度資料を提示し、審議頂きたいと考えている。

委　員　エプソンに係る施設の高家配水地建設費用は全て豊科町で負担したのか。

事務局　その施設には2つＰＣタンクがあるが、内の1つとエプソンまでの配管分の経費約10億円をエプソンが負担した。

委　員　年度毎に問題が地区単位で発生してしまい、結局は各地区で問題を解決しないといけない事になってしまう。5地区の水道を早い段階で統合すれば市全体として問題が絞れるのでは。

事務局　各事業を将来統合しなければならない事は事実であるが、ひとつでも赤字の事業があると統合は非常に困難になるため最低でも各地区黒字体質にしてから統合したいと考えている。また、統合したら料金は一般家庭で2ヶ月20立方メートル使用で3,000円程に抑えられれば理想だと考えている。

会　長　他に質問は。（質問なし）

議事③堀金事業の経営状況について。

事務局　堀金は合併以前から非常に厳しい状況である。今後の懸念材料としては、合併以前から下水道工事に伴う配水管布設替補償金として毎年 18,500 千円が下水道会計から繰入れられていたが、それが平成 20 年度で打ち切りになる。資料のとおり堀金は黒字ギリギリの状況であり、繰入金が打ち切りになると平成 21 年度から即赤字なる。以後、赤字幅は改善傾向となるが、それは支払利息が減少するためであり、その減少分は企業債償還金が増加し結果的に資金収支面において行き詰る。従ってこれらを解消するため料金改定せざるを得ない状況だ。

建設事業における配水管布設替事業は終了しているが、山麓線から須砂渡へ向かう市道には水道管が布設されていない。その場所は給水区域となっており、認可上においても布設を行わなければならない。事業費は 1 億円程度を見込んでおり平成 20 年度には着工したい。しかし、工事資金が底をついてしまう状況であることから慎重に進めたい。

また、水道使用量については基本水量が月 7 立方メートルに設定されている。他の地区は全て 10 立方メートルであり統一化が必要だ。更に直近の料金改定は平成 9 年に行われ、消費税率が 5%に改定された時のものでそれ以降は改定されていない。

資料に料金改定のシミュレーションを作成した。現行 7 立方メートルの基本水量を 10 立方メートルにし、1,020 円の基本料を 1,500 円に、超過料金を 142 円から 150 円に、また 31 立方メートル使用からは豊科・穂高と同様に逓増制とし 170 円とした。

これによって料金改定した場合、給水収益は今までの下水道事業からの繰入額とほぼ同額の 18,000 千円程度の増加が見込めることなる。また、堀金の平均改定率は 13.6%の増になり、大幅な値上げと感じる印象は強いかと思われるが、逓増制による使用水量別の差を設けてあるため一般家庭での平均は 4.7%程度であり、金額でも 200 円から 300 円程度の増額で済むものと考えている。しかし、大口使用者にとっては逓増制の影響によって改定率も高くなる。

以上、堀金については損益が赤字となる状況と厳しい資金収支を踏まえ、料金改定を前提とした審議を願いたい。

会　長　何か質問は。

委　員　下水道事業からの繰入金が廃止されるのはいつ決定されたのか。

事務局　合併前から決定されていた事項だ。

委　員　今回豊科のエプソンに関わる問題と、堀金の繰入金が廃止され経営が厳しくなることを事業単位で議論するのではなく、早期に統合して市全体の問題として議論したほうが良いと考える。

事務局　合併した以上事業の統合をしなければいけないのは事実で、現在安曇野市としての事業認可を取るために水道ビジョンを作成している段階だ。統合する場合、料金については上がる地区の利用者が下がる地区への負担をすることになるため、それを市全体で了承して頂ける状況であるか否かが料金統一の一つの問題になると考えている。合併して２年経過したが、現段階でそのような説明しても理解して頂ける状況ではないと感じている。

料金格差をどのように無くしていくかは、豊科については大口使用者に頼っている料金を少しでも一般使用者に転換し、歩み寄っていく形になると思われるが、市全体で統合を行う際も、同様に歩み寄りの形をとることになると思われる。また、先ほど説明したとおり事業の統合は全事業で黒字体質にならない限り非常に難しい。

委　員　堀金の須砂渡方面の工事はどうしても必要なのか。

事務局　常時生活している人がほとんどいない状況であり、費用対効果の面では疑問はあるが水源に問題があり、堀金の認可上においてもその区域に水道を供給することになっているため工事をしなければならない状況だ。

委　員　堀金は認可の面からの見直しは出来ないか。その工事を止めた場合１億円節約した結果が出ると思われる。

事務局　将来市全体での認可を取得するのにあたり、その堀金の工事も将来に向けての効率化の一環でもあることにご理解頂きたい。

委　員　堀金のシミュレーションからすると、大幅に値上げするという印象はないが、ただし大口利用者に大きな影響がでると説明をうけた。堀金で一番規模の大きい利用者は誰なのか。

事務局　堀金ではベイシアになる。しかし豊科の大口使用者と異なり非常に莫大な水道使用ではない。

委　員　堀金のシミュレーションであるが、基本水量が７立方メートルから１０立方メートルになる面は非常にいい印象だ。このように分かりやすい事項が料金改定の面であれば受け入れてもらいやすいと思う。

会　長　他に質問は。（質問なし）

議事④その他について

事務局　施設見学会・水道ビジョンについて事務局より説明。
次回開催日は１１月２６日午後２時より開催と決定。

１５時１５分に第１回水道事業運営審議会は終了した。